

まんさく

第288号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



苑の庭でお花見 [令和5年4月]

暖かかった4月。いつもならゴールデンウィークにしか咲かない西和賀の桜が満開でした♪

288号もくじ

☆2頁★

* 新年度事務課目標

☆3頁★

* ひやりはっとまとめ
(令和4年度下半期)

☆4頁★

* 「自宅外出」いかがですか
* 不定期シリーズ『地域の窓』

☆5頁★

* 想… 災害を捉える

☆6頁★

* 地域密着型事業紹介
* 寄附・寄贈・訪問等紹介

☆7頁★

* 元気です！家族会
* 光寿苑のかお（入居者紹介）

☆8頁★

* 「光寿苑の日々」(4コマ漫画) * 「自然法爾」(おきさんのお話) * 「おわりに」

令和5年度の法人キーワードは『活かす』です！

【事務】「①事務部門」 ☆氏家洋也☆

法人キーワード		令和4年度共通のキーワードは『続・知る』	
令和4年度下半期のイメージ像	テーマ	自ら出向き相手を知ろう	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		お年寄りのご家族の面会について、その人にあった最良の形を知ろう。	家族との繋がりを大事に考え、何が必要か知ろう。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①プライバシーを確保できる環境づくりを行い、お年寄りのご家族ともに安心して、オンライン面会を利用できるようにする。 ②ユニットにも要望などを聞き取りしてもらい、それを実現できるように環境づくりを進める。	①ホームページを通じて、施設やお年寄りの日常の様子を伝えられるような記事内容で、情報発信をする。 ②施設を身近に考えてもらえるよう、日頃から丁寧な対応を心掛ける。	



法人キーワード		令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ像	テーマ	今ある環境と資源を活かす	
	理想上半期	目標 ①	目標 ②
		コロナ禍で整備した通信環境等を活かす	職員の福利厚生の上を目指す
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①今後の業務改善のため、幅広く活用できないか模索する。 ②ICTを活用した事業所間の情報共有や連携と、職員の連絡網体制の構築を行う。	①今年度から始める福利厚生サービスを職員に知ってもらい、活用してもらえるよう活動する。 ②職員親睦会の円滑な運営が行えるようにサポートを行う。	

【ひやりはっと及び事故まとめ】(令和4年度下半期)

合計『179件』前年同期比『27件減』

事故内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外傷	22	10	4	8	26	8	78
転倒・転落	12	15	12	6	8	7	60
与薬	2	2	1		2	2	9
経管栄養			1	5		1	7
管理ミス		2		2	1	1	6
異食	1	1		2			4
点滴	1	1	2				4
見守りエラー			2	1	1		4
熱傷				1	1	1	3
紛失・破損		1		2			3
自傷						1	1
合計	38	32	22	27	39	21	179

場所	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居室	24	24	18	19	22	13	120
浴室	2	2		3	7	4	18
トイレ	3	1	1	1	4	1	11
廊下	2	2	2	2	1	1	10
ベッド	5			1	1		7
湯の町茶の	2		1	1	1		5
ホール		3			1		4
医務室・静養室						1	1
せせらぎ						1	1
脱衣所					1		1
配膳室					1		1
合計	38	32	22	27	39	21	179

所見	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内出血	17	3	3	3	16	4	46
擦り傷	2	2	1		4	3	12
表皮剥離	2	2		1	3	1	9
切り傷	1	1		1		1	4
熱傷				1	1	1	3
打撲		1			1		2
爪外傷				2			2
骨折	1						1
その他			1				1
掻き傷					1		1
無し	15	23	17	19	13	11	98
合計	38	32	22	27	39	21	179

事故発生時間帯	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
06:00～08:00	4	3	2	2	4	1	16
08:00～12:00	8	4	3	5	10	6	36
12:00～18:00	12	17	7	12	14	6	68
18:00～22:00	5	3	5	5	6	4	28
22:00～06:00	9	5	5	3	5	4	31
合計	38	32	22	27	39	21	179

要介護度別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護Ⅱ						1	1
要介護Ⅲ	13	11	10	10	12	6	62
要介護Ⅳ	10	10	10	10	14	9	63
要介護Ⅴ	15	11	2	7	13	5	53
合計	38	32	22	27	39	21	179

下半期は、昨年度同期比で-27件、年間で比較しても-55件と、大幅な減少が見られた。事故内容としては、例年通り「外傷」が78件と最も多くなったが、着目すべきは直近3年間の半期毎の比較で最大の発生件数となった、「転倒・転落」ではないかと思われる。内4割が、「転倒に繋がる」等の危険を察知した状態での報告であったことから、出来る限りリスクを周知して対策を取り、転倒等を未然に防いでいく取り組みに繋げる効果はあったものと思う。一方で、上位4名のお年寄りが発生件数の5割を占めていた結果から考察すると、自ら移動できる方々に対し、有効な再発防止策を講じてこれなかった可能性も示唆される。

加えて、昨年10月に入院を伴う骨折事故が1件発生し、結果的に原因を特定する事が出来なかったため、骨折に至ったあらゆる可能性を推察し、其々に応じた対策を講じて再発防止に努めた事も報告に挙げる。

『自宅外出』いかがですか

お年寄りが、ご家族が至極の喜びの時とも成る自宅への外出はいかがでしょう。

滞在時間 自宅に2時間程度

対象 ご家族対象

留意事項 会食はお控え下さい。
会話時はマスク着用
手洗いの上、握手等可

事前にお電話を頂き、日程予約制となります。

【0197-84-2526】



第62回

不定期シリーズ 地域の窓

【5月7日、太田受宣初代苑長27回忌音楽法要が勤まりました】



27回忌法要に、京都から真宗大谷派僧侶であり、シンガーソングライターの鈴木君代先生をお招きし、駆けつけた40名以上の参拝の方々は、その美しくも力強い歌声と語りに頷きながら、涙しながら、笑いながら聴聞した贅沢な時間となりました。とむらうとは元々『訪う』と書く。27回忌、改めて受宣さんの心に訪ねる旅(じかん)が動き出した感覚にさせられました。合掌

想

災害を捉える ~岩手から発信します~

『震災の記憶①』 八重樫 敏 氏



3.11東日本大震災から12年が過ぎ、改めて当時を振り返りながら、北上市で水道工事業をされている八重樫敏氏に筆をとって頂きます。

お隣りの北上市で上下水道工事業を営んでおります、八重樫敏と申します。太田理事長さんからご縁を頂き寄稿する事になりました。駄文ではありますが、お付き合い頂けると幸いです。

災害については、いつものお話でしたので、当時の事を思い出しながら、多分オチもない、伏線も回収されない、地域の水道施設の復旧から沿岸の災害対応まで、淡々と向き合った日々を少しずつ振り返ってみたいと思います。

私は、砕けた言い方をすれば、「水道屋さん」という業種です。水道をちよつと詳しく説明すると、道路の土の中にある水道本管（大きいパイプ）から水道管（大分細い）で皆さんの自宅に水道を引張り、それが蛇口や給湯器、トイレ等につながって水が流れ出る事になります。また、流れ出た水は飲んだり何かを洗ったり、或いはトイレで私たちが出したウンチやオシッコと一緒に下水道に流れていきます。

食事、洗濯、入浴、トイレ、掃除などの生活一般から、料理屋や

スーパード、掃除屋さん、車屋さん、病院、その他色々なお仕事でも水を使わないという事は絶対にはありません。この「水」は、よく「命の水」などとも言われたりしますが、人は生きていく限り必ず水を必要とします。必ずです。

今から12年前、皆さんもご存知の東日本大震災では、このあたり前に使えてかつ必要不可欠な水が蛇口から出ない、止まった、或いは運良く溜めていた水を流せない、そういう事が起こった地域が沢山ありました。パイプが流し、トイレそのものが壊れたという場合もありました。ほとんどはそういう設備そのものは無事であったにも拘らず、震災直後に起こった大規模停電により浄水場から水を送る事ができなくなると、その結果、水が出ない、止まった、そういう事になりました。

震災発生直後から、私たち（水道屋）の組合では、浄水場から大きいタンクを積んだトラックで水を各地の臨時給水場（公民館など）に運んだり、地震で壊れた道路の下にある水道本管の修理をしたり

と、依然として大きな余震が収まらない中、しばらくは朝早くから夜遅くまで各社で協力して対応にあたりました。

停電で真っ暗になった街、スーパーや商店に行けばからんとした商品棚、どこまで繞っているのか分からないほど車が並んだがソリンスタンド、どこを向いても不安しか湧いてこない空気の中、私たちが担当した給水所では、訪れた市民の皆様が文句の一つも言わずに整然と並び、さらには感謝の言葉を掛けてくれたり、時々お持ち帰ってきたタンクに水を満たして家に帰って行ったものでした。何より、私たち自身もまた被災者であり、家に戻れば水が出ないのは一緒に、地震で散らかった家の中を家族が何とか住めるように少しずつ片づけてくれていたところを、こういう時だからと家人に謝りながら家を出て災害対応に協力してくれた水道屋さん各社とその社員には、今でも頭が上がりません。

震災直後の数日は、そんな戦場の様な（戦場に行った事はないですが）震園気だったと振り返ります。

（続）

今月の登録者の方々
14 名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

春の訪れと共に外で活動しましょ♪「ひなたぼっこの日常」



2023/04/20 10:44

上：お花見ランチタイム♡
中：お茶会『壁掛けづくり』
下：お年寄りと一緒に防災訓練



2023/04/16 09:29



2023/04/25 13:46

おかげさまでした
ご寄贈★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

- ★ 柏崎良雄様 [湯田]
- ☆ 高橋ちづ子様 [下前]
- ☆ 有馬正興様 [仙台市]
- ☆ 杉谷政行様 [横手市]
- ☆ 高橋恵美子様 [埼玉県]

訪問

☆ 西和賀消防署員様 … 5名
[防災訓練指導 4月25日]

面会 [4/1~4/30]

- 【看取り期面会】 … 延べ7名
- 【対面面会】 … 延べ50名
- 【窓越し面会】 … 1名

外出 [4/1~4/30]

3家族

光寿会へのご支援

おかげさまでした

第108回

108回目は、3年ぶりに対面形式で開催できました『家族会総会』の様子と、令和5年度の方向性に触れます。

元気です！家族会♪



コロナ5類に変わっていく中で、家族会旅行やみんなが一堂に会しての盆踊りが復活してできる事を目指して行きたいと考えています。

また、お年寄りの笑顔に繋がる面会・外出も目下お勧めしています。

光寿苑のかお

【入居者紹介】



佐々木タカさん
大西和賀町沢内より
担当: 工藤美加子、三浦とほ子

タカさんは、若い頃、踊りや琴を習ったりと何でも器用にこなして、やる事は何でも上手だったそうです。旦那様もとても優しく理解ある方で、民生委員の仕事も頑張ってきたそうです。
社交的でお話しするのが大好き。8人兄弟の長女で、人の上に立つのが好きなりーダー的存在だったそうです。今の穏やかなタカさんからは想像できず驚きました。私たちも引張って行って下さい。(五)




「昔とった杵柄」…盆踊り太鼓の音と共に、血がさわぐお祭り大好きタカさん♡

光寿会の目 288号

「看取り同意面談」
まずは、ドクターから状態の説明をご家族が受ける。

〇〇の数値が非常に悪くて、厳しい状況です。




ドクターの面談を終え、続いて光寿苑に戻って看取りケアについて確認していく面談となる。

痛みだけほっといてほしいです。



その後、ご本人と面会の運びとなるのだが、

「おっ、えっ、」



思ったよりよかったです。私たちがこのことも分かってくれてるみたいだね。

覚悟していらした分、会えて良かった分、良いギャップの時にある。



イラスト：1000

電話でご家族に、看取り同意面談の目取りを確認する時、ご家族の多くが最悪の状態を想像なさる様だ。確かに、情報を聴いているだけではその心情に至る事もよく分かる。いざ、ご本人に会ってみると、少し落ちつく。ぜひ、面会は大切にしたい。

慚愧なき者人をとはいわない。

《涅槃経》

第87回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

指導者も自称している人で、クオレは悪くないけれど、言って威張っている者がいるね。私はこういう者を見ると、虫唾が走る。それで冒頭の言葉も思い出した。

お釈迦様は、「慚愧なき者を人とは言わない」と言われたよ、と医師ギーヴァカは大王アジャセに語った。古代インドのマガダ国での話だ。

「慚愧」とは「どういふ事を言うのだから」。
「慚」は「自ら羞恥す」。私は間違っていたと謝るのは「愧」と言い、これは「天に羞せず」に通ずる。

私たちは、生まれながらの良心(仏心)を抱いて生まれ

てきた。仏教のスタンダード。人に對して「ごめんなさい」と謝るのはそのはたらきだ。

ギーヴァカはアジャセが最も信頼する友だ。

その友が、君はごにその「仏心」を忘れてきたのだと諭す。信頼する友の言葉だから、アジャセ王は素直に聞けたのかも知れないね。人間の関係が「信頼」で結ばれていなければ、断絶し孤立していくより他にない。

関わり合いが上手くない社会を「地獄」と言うのか。その地獄は、恥ずかしいと思う素直な心によって破られると「涅槃経」は語る。

おわりに

あるお母様が新玉ねぎを使ったサラダを美味しく食べて下された。あまりに甘くて美味しい秘訣をお聞きしたところ、

「新玉ねぎは、何もしないで少し放っておくと甘みが増すのよ。人間は放っておくと、えぐみが出てくるけどね、アハハハッ。」

同席の旦那様も突っついて、お二人の懐の深さに感激した時間。しかしながら、深い話である。目録の話にも似たものがある。視線を全く合わせないと冷たさや無視された感覚となり、視線を合わせ続けると威圧感を覚えるときもある。「近すぎず離れすぎない」程よい関わり方、案外難しい事だ。

必えぐみ舌にまじわりつく様な苦み